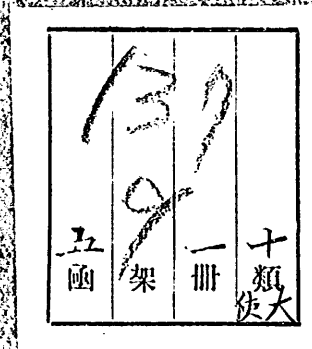


由答郡鹹湖府稅則并聞書



国立公文書館

文庫

2 A
33-6
① 291

291

利三

理事功程之一
由太郡賦湖府稅則并聞書



正記

由谷郡及鹹湖府稅法

推大副使ニ隨ヒカリホルニアヨリ華聖

到ル途ニシテ偶大雪鐵路ヲ埋メテ通ス

ハカラス唯オクデシヨリ此府ニ到ルノ一路

稍通スルヲ得是ニ於テ使節及隨行ノ官員皆

此府ニ到ル余亦隨ヒ駐マル大約十六日其間

徒然ニ堪ヘス因テ日ニ府廳ニ到リ知府ウエ

ル氏ヲ訪ヒ府稅課收ノ方法ヲ質ス當時余未

タ米國稅法ノ事ヲ詳ニセス加フルニ同氏亦

年邁キ記憶ノ力大ニ衰フ故ニ反復問質ノ際

大蔵省

前言或ハ後答ニ反スルモノアリ究ニ其事ニ
詳カナル者ヲシテ府税國税等課收ノ大要ヲ
筆セシメ且其月同府刊行新聞ニ載スル所ノ
府税法則ヲ附シテ以テ余ニ授ク余受テ之ヲ
讀ムト一過目ニ譯シテ以テ消遣ノ具ニ供ス
而ノ曩ノウエル氏ヨリ聞ク所モ亦全ク捨ツ
ヘカラス因テ譯稿ト合セ以テ茲ニ記ス
凡ソ合衆國ノ法人口若干萬ニ滿タサレハ之ヲ
州ト爲サスノ郡ト謂フ國中土地廣濶トイヘト
モ人口少クシテ未タ州タラサル者若干箇アリ

凡ソ州ト郡トハ權利ヲ異ニスルノ條多シ中ニ
就テ各州ノ主長即鎮ハ民ノ撰ム所各郡ノ主長
ハ議員之ヲ撰ミ大統領之ヲ命シ各州ハ上下兩
院ノ議員ヲ出シ各郡ハ唯下院ノ議士ノミヲ出
ス如キ其最大ナルモノナリ又邑ト府モ亦大ニ
其權利ヲ異ニス邑ニハ邑監數人アリ其事務ヲ
司リ府ニハ府廳ヲ設ケ知事ヲ置キ府老ヲ撰ミ
テ府法ヲ議セシムル等固ヨリ州政府ノ下ニア
リト雖モ自ラ特立ノ勢アリ而ノ其郡ニ屬スル
者モ州ニ屬スル者モ其權利ニ別アルヲナシ今

下ニ載スル鹹湖府モ亦ユター郡ニ属スト雖モ
尚他州ノ府ト異ルナシ

ユター郡租税ノ事

凡此郡ノ郡税ト名クル者其數一ナラス其重要
ナルモノハ財産税ナリ財産税トハ即人ノ有ス
ル所ノ浮財即可動物實産即不可動物ノ時價ニ比シテ其
價百分ノ一半ヲ課スルノ税ナリウエル氏曰ク右
百分ノ一半即一分五厘中三分一即五厘ハ郡ノ費用ニ
充テ三分一ハ邑ノ費用ニ三分一ハ府即鹹湖府ノ費
用ニ給ス但府ニ住スル者ハ素ヨリ府費ヲ給セ

サルヲ得サルヲ以テ右ノ如ク一分五厘ヲ課セ
ラルト雖モ府外ニ住スル者ハ郡邑ノ費用ヲ
給スルノミナレハ唯一分ノ税ヲ納ムヘキノミ
ト

今按スルニ府下ニ住スルノ人更ニ別ニ邑税
ヲ納ムルノ理ナシ鹹湖府ハ人ノ輻輳スル所
ノ一都會ナルヲ以テ府ノ推利ヲ得府ノ名ヲ
得ルト雖モ尚紐育州中紐育邑ヲ以テ紐育府
ト爲スカ如ク一處ニシテ府邑ノ名アルカ故
ニ其住民府邑ノ費用ヲ給セサルヲ得サルナ

ルヘシ

一分頭税

此郡ニ於テハ凡男子此郡ヨリ出ス所ノ議員
ヲ投票ヲ以テ撰ミ得ルノ年齢即十八歳ヨリ
五十歳マテノ間ハ毎歳一口毎ニ三元ヲ課ス
之ヲ分頭税トイフ若シ之ヲ納ムル克ハサル
者ハ道路修理ノ役ニ使用スルヲ毎歳二日ト
云フ

按スルニ此税郡用ニ給スルニ非スシテ府
或ハ邑用ニ供スルナルヘシ今聞クマ、ニ

此ニ記スノミ

鹹湖府ノ事

此地大湖アリ水極メテ鹹苦鱗介ノ属生活スル
克ハス故ニ名ケテ鹹湖ト云フ直ニ資テ以テ其
府ノ稱トスト云フ

府中家屋ノ數大約四千居民ノ數二萬ヨリ二万
五千人許アリ

府税ノ高一千八百七十年中大約二万五千六百
二十五元許アリ

合衆國大政府ニ納ムル國税同年中大約五萬元

許アリ

府廳理制

知事一人毎歳之ヲ撰挙ス府老四人府中四區ニ
分チ一區各一員ヲ出ス又副府老ナル者アリ亦
毎區各一員ヲ出ス凡ソ府中ノ法ヲ立テ財ヲ理
スル議院ヲ設ケ毎歳之ヲ議定ス上院ハ知事之
カ議長タリ府老事ヲ議ス下院ハ副府老事ヲ議
ス其中一員ヲ撰テ議長トス外ニ主計一員收税
官三員府中取締選卒ニ非ス唯人ノ界分ヲ
犯ス者ヲ糾治スルヲ司ル一員合
シテ二十一員ヲ以テ府廳ノ官員トス選卒ハ關

ラスト云フ

右ノ官員等ハ皆上院ニテ之ヲ撰ミ知事之ヲ命
スト云フ

又府廳ノ中ニ郡政ヲ議論スルカ為ニ設クル上
下議院アリ其員合シテ六十五人ト云フ

營業稅規則

○第一條 營業免許狀ヲ受ケ之ヲ記載スルノ
法

第一節

凡ソ下ニ掲列スル諸家業ヲ営ム者ハ先ツ初二

大藏省
營業免許ヲ得テ後ニ其業ヲ営ムヘシ免許ヲ得
サル前ニ決テ之ヲ営ム可ラス

第二節

凡ソ營業免許ヲ願フ者ハ當府ノ知事ニ願書ヲ
出シ且下ノ如キ免許税金ヲ市中出納掛迄前以
テ納ムヘシ又此營業免許狀ハ知府事或ハ市廳
ノ任重キ官員ヨリ之ヲ出シ市廳ノ記録掛廳印
ヲ押シテ之ヲ證ス可シ

此時記録掛ハ出ス所ノ免許狀ヲ「エビシ」ノ順序
ニ從ヒ簿中ニ記載シ且其番号願人ノ姓名月日

場所家業ノ種類及納ムル所ノ金高等ヲ精細ニ
記シ置ク可シ

第二條 銀行 賣買世話人及兩替取扱人等
營業免許ノ事

第一節

凡ソ爲替手形抽銀單交銀單銀行紙幣許交單其
外引替手形ノ類ヲ取扱ヒ或ハ賣買シ或ハ金銀
條金等ヲ賣買スル者ハ獨立社立ニ拘ラス皆初
ニ免許ヲ受サレハ其業ヲ営ムヲ許サス

第二節

凡ソ營業免許ヲ願出ル銀行組會證券組會等ハ其時ノ知府事或ハ記録掛ノ前ニ於テ其用フル所ノ財本ノ多寡ヲ誓テ申出スヘシ是ニ於テ記録掛ハ「エビシ」ノ順ニ從テ其姓名住所及財本ノ高等ヲ記載シ毎歲其財本ノ高ニ從テ免許狀ヲ出シ其稅ヲ課ス比例左ノ如シ

三十萬元ヨリ以上ノ財本ヲ有スル者	毎歲五百元
二十萬元以上三十萬元ニ足ラサル者	同三百元
十萬元以上二十萬元ニ足ラサル者	同二百元
十萬元ニ足ラサル者	同一百元

○第三條 諸商賈營業免許ノ事

第一節

凡ソ諸物品ヲ府中ノ店肆ニ於テ賣買スル者ハ之ヲ認テ商賈ト爲ス可シ

第二節

凡ソ營業免許ヲ願出ルノ商賈ハ其物品ヲ自身ニ所持スルト他人ニ代テ之ヲ賣買スルトニ拘ラス必ス其物品賣捌ノ高ヲ金幣ニテ積リ其高ニ應シテ免許ヲ受クヘシ若シ免許ヲ受ケタル後其期限ノ盡サル間ニ商業繁昌シ財本ヲ増ス

一 ア ラ ハ 其 高 程 ノ 増 免 許 ヲ 願 ヒ 出 ヘ シ 尤 免 許
ヲ 願 フ ハ 自 身 ニ 出 ル モ 代 人 ヲ 出 ス モ 妨 ケ ナ シ
ト 雖 モ 必 ス 知 事 或 ハ 記 録 掛 ノ 前 ニ 出 ラ 其 賣 買
ノ 高 ニ 誤 ナ キ ト ヲ 誓 テ 證 ス ヘ シ

第三節

記 録 掛 ハ 右 財 本 ノ 勘 定 書 ヲ 「エ ビ シ」 ノ 順 ニ 從 テ
簿 冊 ニ 記 シ 年 々 次 ノ 比 例 ノ 如 ク 免 許 税 ヲ 取 立
テ 営 業 免 許 状 ヲ 出 ス 可 シ

第一等	五十万元以上ノ物品ヲ商フ者	毎 歳	五百元
第二等	四十万元以上五十万元ニ至ル者	同	四百五十元

第三等	三十万元以上四十万元	同	四百元
第四等	二十万元以上三十万元	同	三百五十元
第五等	十万元以上二十万元	同	三百元
第六等	七万五千元以上十万元	同	二百五十元
第七等	六万元以上七万五千元	同	二百二十五元
第八等	五万元以上六万元	同	二百元
第九等	四万元以上五万元	同	一百七十五元
第十等	三万元以上四万元	同	一百五十元
第十一等	二万元以上三万元	同	一百二十五元
第十二等	一万五千元以上二万元	同	一百元

州 藩 省

第十三等	一万元以上一万五千元	毎歳	九十元
第十四等	八千元以上一万元	同	八十元
第十五等	五千元以上八千元	同	七十元
第十六等	四千元以上五千元	同	六十元
第十七等	三千元以上四千元	同	五十元
第十八等	二千元以上三千元	同	四十元
第十九等	一千元以上二千元	同	三十元
第二十等	一千元	同	二十五元
右何レモ營業稅三箇月分ノミヲ一時ニ納ムル			
片ハ一割五分増課シ六箇月分ノミヲ一時ニ納			

ムレハ一割ヲ増課ス一時一歳分ヲ納ムレハ増課セス

第四節

右三節ノ條例ハ酒及酒精類ヲ商フ者ノ爲ニ設タルニ非レハ此例ヲ以テ其營業免許ヲ與フ可ラス

○第四條 旅店營業免許ノ事

第一節

凡ソ此府中ニ於テ客ヲ宿セシムル爲數多ノ室ヲ備フル家ヲ所有スル者ハ之ヲ認テ旅店ト爲

大 蔵 省

ス可シ

第二節

凡ソ營業免許ヲ願出ル旅店ハ其客室ノ數ヲ盡ク明細ニ書出シ其主人躬ヲ願出ルカ又ハ其代人ニテモ當知府事或ハ記録掛ノ前ニ於テ室數ニ偽ナキ一ヲ誓フヘシ

第三節

記録掛ハ右申立タル客室ノ數ヲ逐一「エビシ」ノ順ニ從テ簿冊ニ記載シ毎歲左ノ比例ノ如ク營業稅ヲ取立テ免許狀ヲ出ス可シ

第一等	百箇ヨリ多クノ室ヲ有スル者	毎歲二百元
第二等	七十五箇ヨリ百箇迄ヲ有スル者	同 百五十元
第三等	五十箇ヨリ七十五箇迄ヲ有スル者	同 百元
第四等	二十五箇ヨリ五十箇迄ヲ有スル者	同 五十元
第五等	二十箇ヨリ以上二十五箇迄ヲ有スル者	同 二十五元

右何レモ免許稅半年分丈ヲ一時ニ納ムル片ハ一割ヲ増課ス尤一箇年分ヲ一時ニ納ムレハ増課セス

○第五條 割烹店營業免許ノ事

第一節

凡ソ此府中ニ客ヲ宿セシムルヲ無クシテ食物ヲ給スル者ハ之ヲ認テ割烹店ト爲ス可シ

第二節

凡ソ割烹店ヲ関カンヲ願出ル者ハ自身或ハ其支配人ヲ以テ知府事或ハ記録掛ノ眼前ニ於テ一時ニ幾位ノ客ニ酒食ヲ給スル程ノ準備アリト誓ツテ申出ス可シ

第三節

記録掛ハ右申出タル待客ノ數ヲ記シ之ニ照シテ毎歳營業免許税ヲ納メシムヘシ

一時ニ三十人ヨリ多クノ客ヲ待ツ者	毎歳七十五元
------------------	--------

一時ニ三十人ノ客ヲ待ツ能ハサル者	同四十元
------------------	------

但シ半年分而已ノ税ヲ一時ニ納ムル者ニハ

一割ヲ増課スヘシ

○第六條 借馬、借馬車屋、借車屋及僦借厩營業免許ノ事

第一節

凡ソ馬、馬車及其他ノ車ヲ人ニ貸ス者ハ之ヲ認テ借馬車屋トシ他人ノ獸類ヲ其厩ニ居ラシメ其食ヲ給スル者ハ之ヲ認テ僦借厩トス

第二節

凡ソ借馬車屋等ノ營業免許ヲ願出ル者自身或ハ其支配人知府事或ハ記録掛ノ前ニ於テ其所
有シ或ハ養フ所ノ馬ト車ノ數ヲ幾許有リト誓
テ申出ス可シ

第三節

記録掛ハ右申出タル馬及車ノ數ヲ記載シ毎年
營業免許ヲ出ス可シ其比例左ノ如シ

馬車十輛以上ヲ有スル者	毎歲	百元
同 五輛ヨリ十輛迄有スル者	同	六十元

同 五輛以下ヲ有スル者	同	三十元
-------------	---	-----

他人ノ獸ヲ養フ者	同	二十五元
----------	---	------

多寡ニ拘ラス
同一ノ規則也

右何レモ半年分而已ノ稅ヲ一時ニ納ムルモノ
ハ一割ヲ増課スヘシ

○第七條 打球場、打木丁場營業免許ノ事

第一節

凡ソ打球場トハ他人ヲメ此遊戲ヲ做サシムル
爲ニ打球臺ヲ所持シ或ハ之ヲ支配スル者ニテ
其臺ヲ用フル客即チ之ヲ借ル人ヨリ金銀或ハ
金銀ノ代ニ他ノ手形類ヲ受取者ヲ云フ而シテ此

市中ニ在ル打球場ハ皆右ノ如クニシテ所有セラル、者ト看做スヘシ尤所持ノ人自己ノ慰ミノ爲ニスル者ハ此例ニ非ス又他人ヲノ金銀或ハ其代物ヲ賭ケテ爲サシムル者ハ博徒ニ之ヲ貸ス所業ト看做ス可シ皆其營業稅ノ比例左ノ如シ

一箇ノ臺ヲ有スル者	毎三月	三百元
二箇ノ臺ヲ有スル者	同	五百二十五元
三箇ノ臺ヲ有スル者	同	六百五十元
四箇ノ臺ヲ有スル者	同	七百元

是ヨリ以上一箇ヲ増ス毎ニ三十元ヲ收ム

第二節

打木丁屋トハ打木丁場ヲ有シ或ハ之ヲ預リ人ヲシテ但シ用フル所ノ木其遊戲ヲ爲サシムル者ヲ云フ凡ソ此場ヲ有スル者ハ一場ニ付三箇月毎ニ三百五十元ヲ收メシム

第三節

凡ソ右ノ條例ニ從ツテ其營業免許ヲ受タル者ハ少ナクモ二箇條ノ請合ヲ證文面ニ記載シ之ヲ犯スギハ五百元ノ過料ヲ出ス一ヲ約スヘシ

即其一條ハ凡ソ此營業免許ヲ受ル者ハ右條例ノ規則ヲ固守スヘシ其二條ハ鳴物舞踊飲酒其他不正淫奔ノ事ヲ行ハシムルヲ禁ス是ナリ

○第八條 諸雜業營業免許ノ事

第一節

凡ソ此市中ニ居住スル客引或ハ「バイヘル」是ハ依託セラレテ市人ノ物ヲ買ヒ歩ルク人ナリ家屋敷賣買世話人、鑛物ヲ破碎シ或ハ之ヲ熔解シ或ハ金類ヲ參和スル者、引札貼、家土讓渡證文書、齒科、内科、外科、眼科、耳科等ノ鑿者、請合會社、寫真師、機器ヲ世話セル者

陸荷運送問屋、傳信局、職人口入、乘合車荷物車此他ノ車類ヲ貯ヘテ渡世スル者、荷持、荷送、履磨、果物ヲ賣歩行ク者、演戲舞踊ヲ業トスル者、曲馬師、觀場師其他ノ耳目ヲ慰スルヲ業トスル者、氷溜遊戲場、放銃場、舞踊場等ヲ渡世トシ或ハ之ヲ真行スル者皆初ニ其營業免許ヲ受ケサルヘカラス

凡ソ右諸雜業ヲ営ム者盡ク以下ニ列スル規則ノ條例ヲ固守ス可シ

第二節

第三節

凡ソ右諸雜業ヲ管ム者別段ノ免許
月分ヲ納ムルヲ受ルニ非レハ年々左ノ如ク前以テ
 假令ハ三箇月乃至六箇

營業稅ヲ納ムヘシ

第一客引	毎歲二十五元
第二地面屋敷賣買世話人	同 同
第三鑛物ヲ碎キ及熔ス者	同 一百元
第四金類參和者	同 二十五元
第五流票ヲ貼歩ク者	同 十五元
第六家土讓渡證文書	同 二十五元
第七齒科醫	同 同

第八内科醫	同 同
第九外科醫	同 同
第十眼科醫	同 同
第十一耳科醫	同 同
第十二請合會社	同 同
第十三寫真師	同 同
第十四機器賣買ヲ世話スル者	同 五十元
第十五履磨	同 二元
第十六戲場	同 二百元
第十七水溜戲場	同 一百元

大蔵省

大蔵省

第十八	放銃場	毎歳一百元
第十九	音會、樂會、舞踊會、講釋會、天法會、其他、等ヲ展観集ムル場所	毎會或ハ 毎行毎ニ 五元
第二十	曲馬師	毎會或ハ 毎行毎ニ 五十元
第二十一	奇獸觀場	同
第二十二	乗合車持主	毎歳同
第二十三	借馬車御者	同
第二十四	荷車	同
第二十五	傳信機局	同
第二十六	荷物持運人	同
第二十七	荷物積送會社	同

第二十八	職人口入	同	二十五元
第二十九	果類行賈	同	五元

何レモ半年分ノミノ税ヲ納ムルハ自餘半年ハ一割ヲ増課スヘシ

○第九條 雜則

第一節

凡新鮮獸肉鳥肉魚介野菜等ヲ鬻ク者ハ皆此府中ノ肆店或ハ市場ニ於テスヘシ且其營業税ハ家屋土地ノ税中ニ積リ入ル、ト看做スヘシ

第二節

大蔵省

凡ソ諸家業ヲ管ムニ最初營業免許ヲ願出テ其
受タル居所ヨリ他所ニ移轉セハ其度毎ニ市廳
ノ記録局ヘ何町何地ニ移店セシ趣ヲ届出ヘシ
然ラサレハ其營業免許ヲ法ニ叶フト認ムヘカ
ラス

第三節

凡ソ此府中ニ於テ商貨ヲ行賣シ富閭ヲ賣リ或
ハ右ニ類セシ詐欺不正ノ物ヲ賣リ又ハ盲札ヲ
以テ物ヲ賄賣シ或ハ覆射ノ類ヲ以テ利ヲ射ル
等ノ業ヲ管ムヲ禁ス

第四節

凡ソ球突場、打木丁場、或ハ旅店、酒店、割烹店、茶店、
觀場、舞踊、音樂會其他假劇ノ觀場及遊場等ハ知
府事ノ心得ニヨリ其營業免許ヲ差止メ市廳ノ
會議ニ持出シテ可否ノ決ヲ取ヲ得ヘシ又市廳
ノ議員ニ於テハ右ニ掲列スル營業免許ノ數ヲ
何時ニテモ決議ニ由テ限ルヲ得ヘシ

第五節

凡ソ此規則ノ條々ヲ誤テ犯スモノモ故ニ之ヲ
犯ス者モ百元ニ過キサル過料ヲ出サシムルカ

或ハ六箇月ニ過キサル入牢ヲ命スヘシ或ハ其
罪科ニヨリ入牢ノ上過料ヲ出サシムル一アル
ヘシ

但シ右犯人ノ過料ハ其營業免許税ノ一倍ヨ
リ過クヘカラス

第六節

凡ソ此規則ノ箇條中前ニ出タル規則ト齟齬ス
ル一アリト皆此度ノ條例ヲ以テ是トスヘシ
右ノ外犬税一頭ニ付毎歳三元ヲ課ス
又酒類ヲ鬻ク者ニ課スルノ營業税則左ノ如シ

一小賣酒屋	一パイ ン ト 以上	每三月	四百五十元
一大賣酒屋	一パイ ン ト 以上	同	百五十元
一居酒屋	酒精葡萄 酒等一切	同	九百元
一麦酒屋	專ラ麦酒 ノ類	同	百五十元

凡ソ此賣酒ヲ渡世トスル者ニ課スルノ税ハ專
ラ濟貧賑窮ノ費用ニ充ツト云フ
又前ノ税則中ニ載スル者ハ專ラ府ノ費用ニ給
スル一ニテ郡用ニ供スルハ財産ニ課スルノ税
ノミヲ用フト云フ